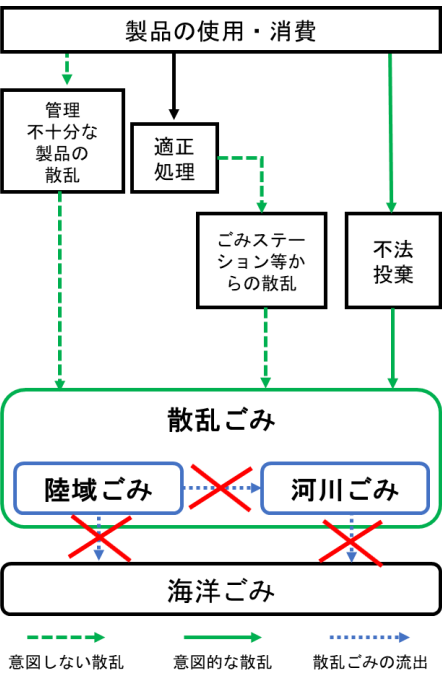


県内散乱ごみ等の現状と課題について ～①発生状況～

【散乱ごみ】



■発生原因

- <意図しない散乱>
- ・ 管理不十分な製品の散乱
 - ・ ごみステーション等からの散乱
- <意図的な散乱>
- ・ 不法投棄ごみ

■発生場所

陸域ごみ

陸域に散乱するごみであって、「河川ごみ」以外のもの

河川ごみ

河岸、河川敷に散乱するごみや河川を流下するごみ

(環境省：散乱ごみ実態把握調査マニュアルを一部加工)

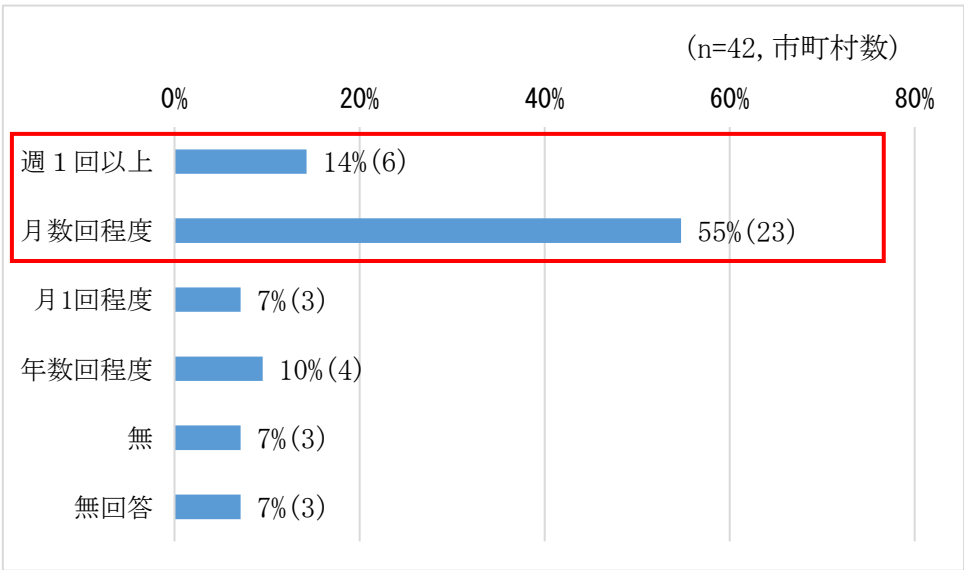
I 陸域ごみの状況

1 市町村へのアンケート調査結果（令和3年5月）

（1）散乱ごみ等に関する苦情や通報等の対応状況

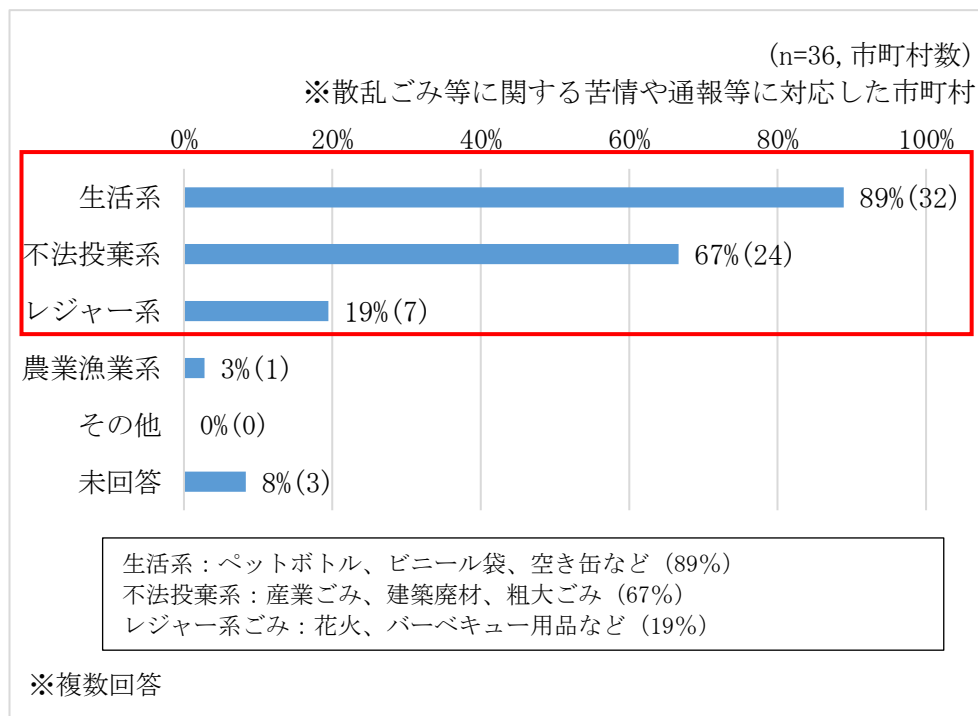
- 月数回対応している市町村が約 55%で最も多く、週 1 回以上対応が約 14%、月 1 回程度の対応が約 7%であった。

【図 1 散乱ごみ等に関する苦情や通報等の対応状況（市町村廃棄物所管課）】



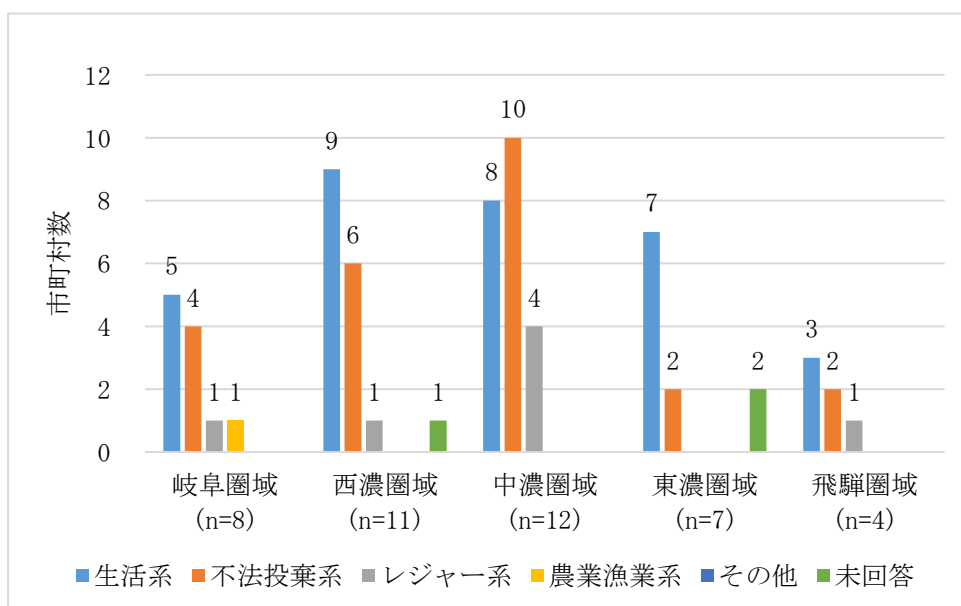
- 苦情や通報等があった散乱ごみの種類としては生活系ごみ、不法投棄系ごみが多く、一部地域ではレジャー系ごみも問題となっている。

【図2 散乱ごみの種類（市町村廃棄物所管課）】



- 散乱ごみの種類について、明らかな地域差は見られず、生活系及び不法投棄系の散乱ごみが多い。

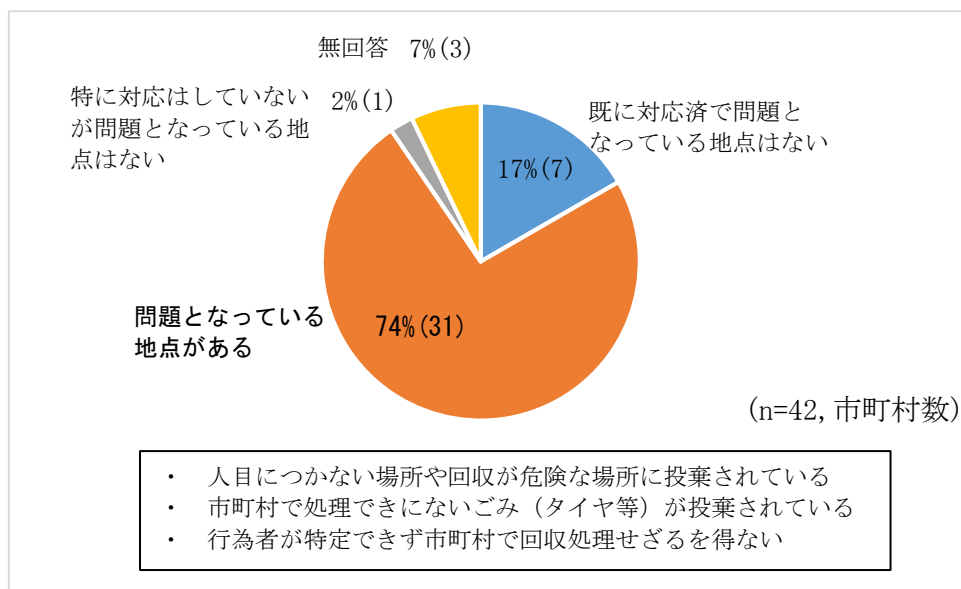
【図3 散乱ごみの種類（圏域別, 市町村廃棄物所管課）】



(2) 散乱ごみ等の発生原因

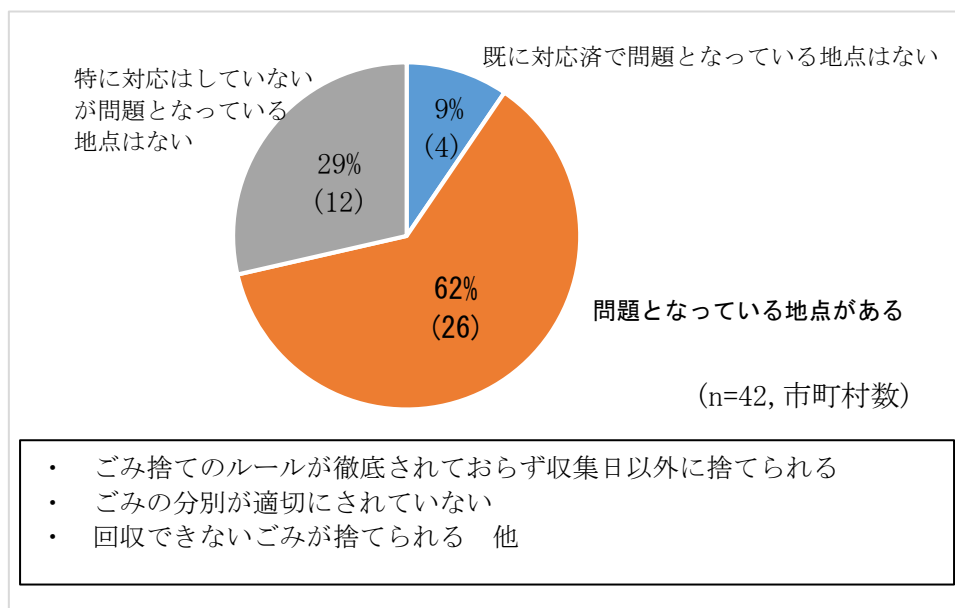
- 不法投棄と回答した市町村が最も多く、31 市町村（約 74%）において問題となっている地点があると回答。

【図4 不法投棄が問題となっている地点】



- また 26 市町村（約 62%）において、ごみ集積場（ごみステーション等）で問題となっている地点があると回答。

【図5 ごみ集積所（ごみステーション等）が問題となっている地点】



Ⅱ 河川ごみの状況

1 河川ごみ実態調査（令和2年9月）

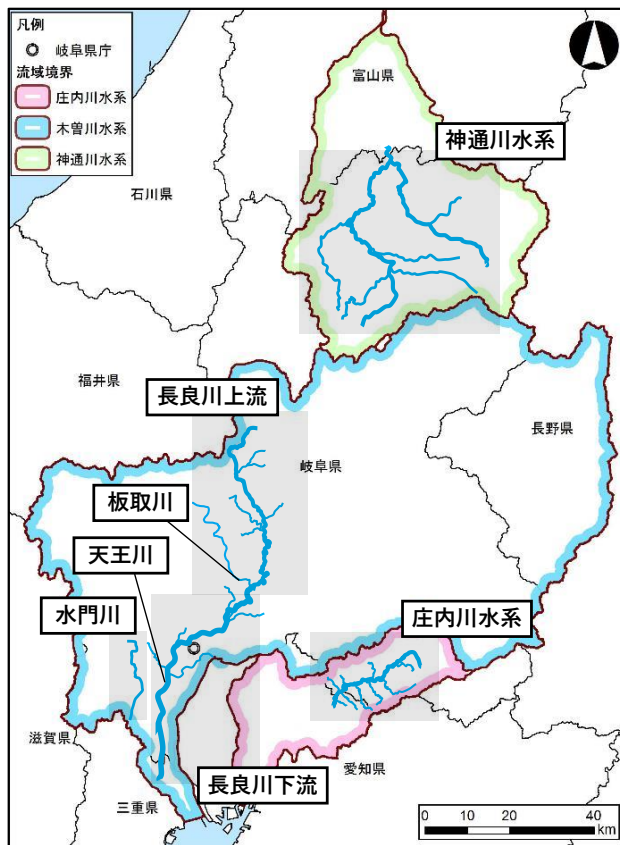
令和2年9月、県内82地点で河川ごみの量及びごみの分類について調査を実施し、河川ごみの現況を確認。

※ 河川ゴミ調査マニュアル（平成24年3月 国土交通省水管理・国土保全局河川環境課）を基に目視でごみ量を推計。

（1）調査地点

長良川（62 地点）、庄内川水系（10 地点）、神通川水系（10 地点）

【図6 河川ごみ実態調査の対象とした水域】

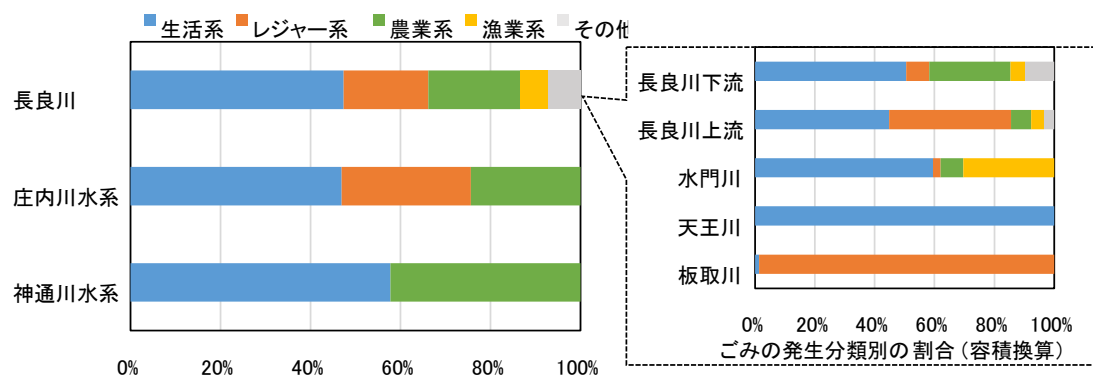


（2）調査結果

①ごみの発生源分類

- 長良川、庄内川水系、神通川水系のいずれにおいても生活系、農業系ごみが見られた。
- 長良川の一部地点ではレジャー系ごみの割合が約 100%であった。

【図 7 ごみの発生源分類別の割合】



②各水系における不法投棄系ごみの量

調査地点 82 地点中、不法投棄系ごみは 46 地点で確認。

【表 1： 各調査地域における不法投棄系ごみの概要】

水系	調査地点数	不法投棄系ごみが確認された地点数	不法投棄系ごみが確認された地点数の割合	不法投棄系ごみの個数	1 調査地点あたりの個数	平均ごみ袋量 (20L袋換算)
長良川	62	41	66%	107	1.7	4.9
長良川下流	(40)	(27)	(68%)	(72)	(1.8)	(4.9)
長良川上流	(10)	(7)	(70%)	(19)	(1.9)	(2.6)
水門川	(5)	(4)	(80%)	(8)	(1.1)	(0.6)
天王川	(5)	(1)	(20%)	(2)	(0.4)	(1.0)
板取川	(2)	(2)	(100%)	(6)	(3.0)	(9.3)
庄内水系	10	2	20%	2	0.2	5.1
神通川水系	10	3	30%	4	0.4	0.3

③ごみの製品分類における地点の割合（ごみ組成別）

長良川、庄内川水系、神通川水系のいずれの水系においても、約 7 割以上の地点でプラスチック類のごみを確認。

【表 2： ごみの確認された調査地点の割合（ごみ組成別）】

ごみ組成	長良川						庄内川水系	神通川水系
		長良川下流	長良川上流	水門川	天王川	板取川		
プラスチック類	76%	(88%)	(40%)	(100%)	(20%)	(100%)	70%	90%
紙類	31%	(30%)	(40%)	(0%)	(60%)	(0%)	10%	0%
金属類	27%	(23%)	(50%)	(40%)	(0%)	(50%)	10%	60%
缶類	11%	(5%)	(10%)	(40%)	(40%)	(0%)	10%	0%
ゴム類	8%	(10%)	(10%)	(0%)	(0%)	(0%)	0%	0%
布類	5%	(3%)	(20%)	(0%)	(0%)	(0%)	0%	10%
発泡スチロール類	5%	(8%)	(0%)	(0%)	(0%)	(0%)	0%	0%
木材類	3%	(3%)	(0%)	(0%)	(0%)	(50%)	0%	0%
ガラス類	2%	(3%)	(0%)	(0%)	(0%)	(0%)	0%	10%
陶磁器類	2%	(3%)	(0%)	(0%)	(0%)	(0%)	60%	0%

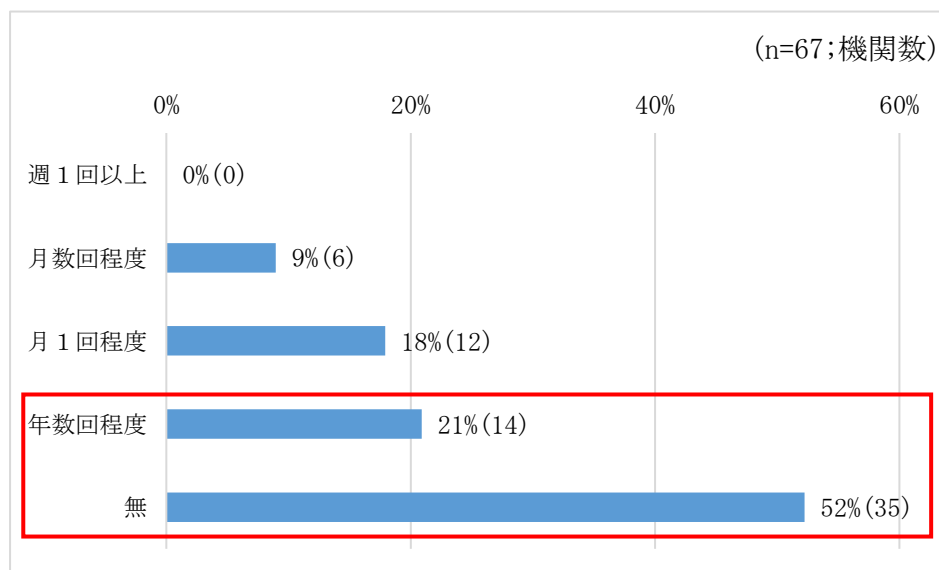
（注）各調査地点において確認されたごみを組成に応じて分類し、容積の大きい上位 2 分類の地点数を記録した。

2 河川等管理者へのアンケート調査結果（令和 3 年 5 月）

（回答者：67（市町村(44)、県土木事務所(11)、中部地方整備局(9)、水資源機構(3)）

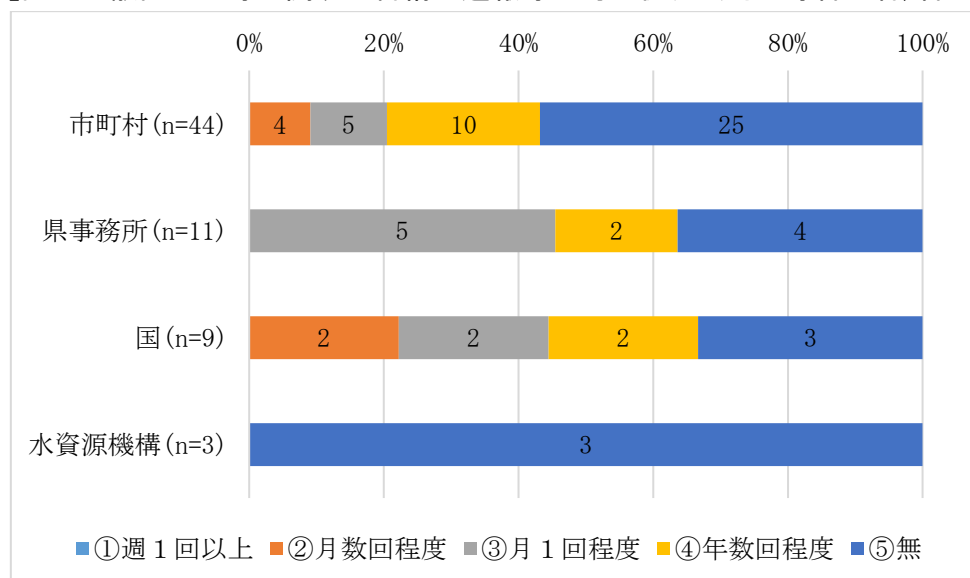
- 散乱ごみ等に関する苦情や通報等が無い又は対応していないと回答した機関が 35 機関（約半数）で最も多く、年数回程度と併せると 7 割を超える。

【図 8 散乱ごみ等に関する苦情や通報等の対応状況（河川等管理者）】

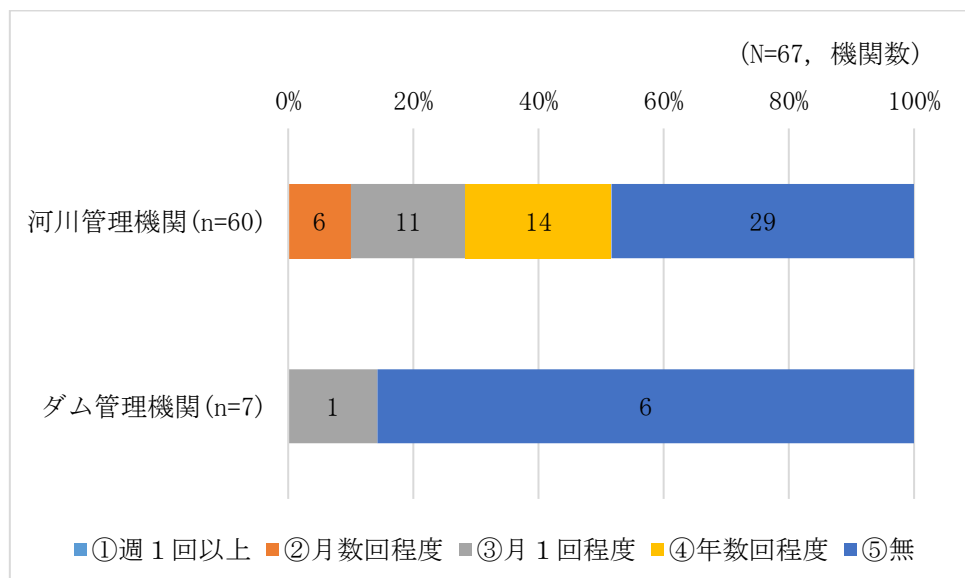


- 管理者別に分けると、県及び国が管理する河川等においては、月 1 回程度以上の頻度に対応する機関が 4 割を超えるのに対し、市町村や（独法）水資源機構が管理する河川及びダムにおいては苦情等が無い又は年数回程度の対応が多数を占める。

【図 9 散乱ごみ等に関する苦情や通報等の対応状況（河川等管理者、管理者別）】

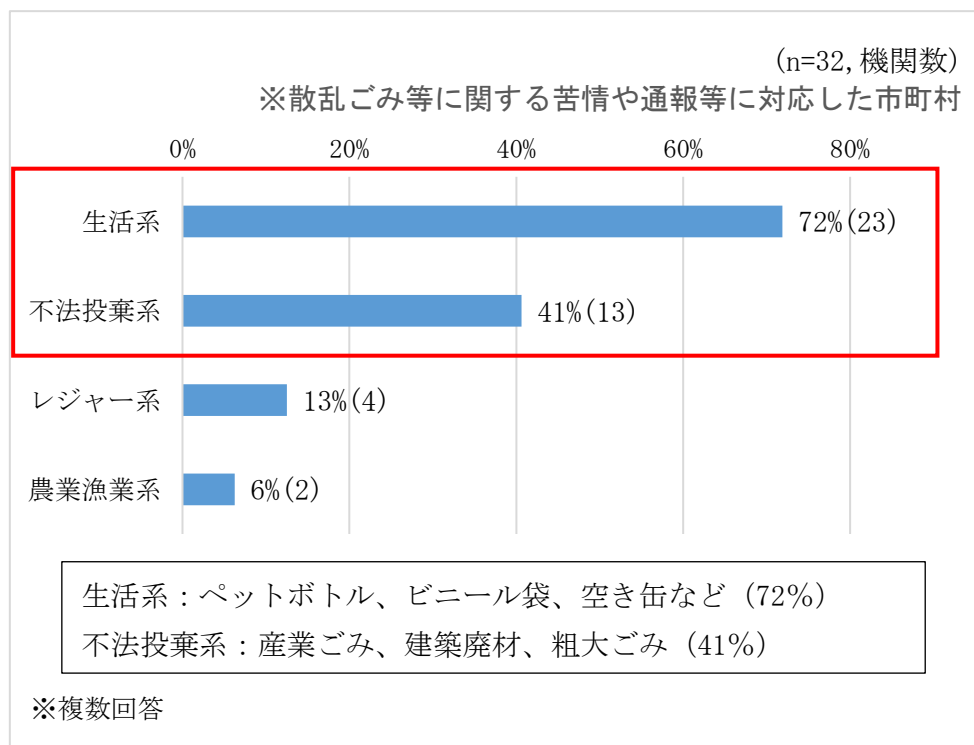


<参考 河川管理機関とダム管理機関の比較>



- 苦情や通報等があった散乱ごみの種類としては生活系ごみ、不法投棄系ごみが多い。

【図 10 散乱ごみの種類（河川等管理者）】

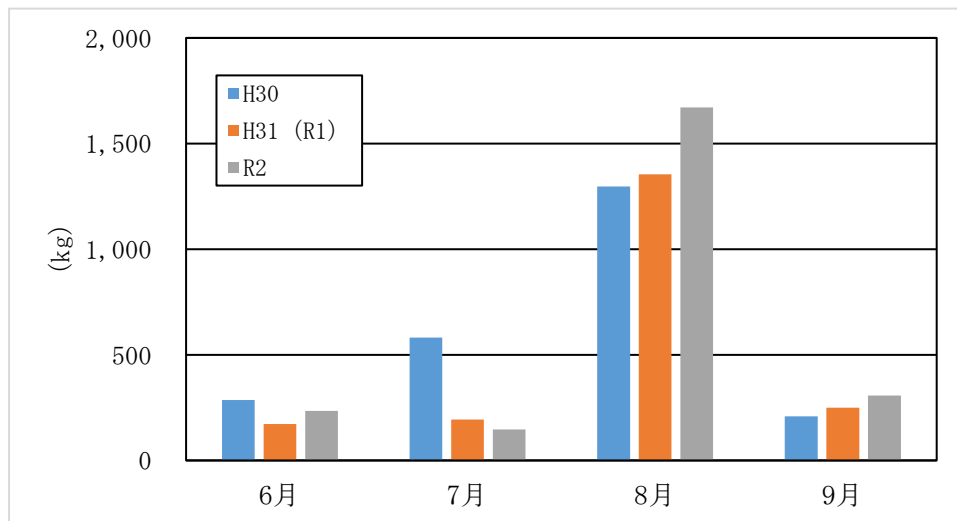


3 河川ごみ回収量調査（美濃市：平成 30 年～令和 2 年（毎年 6 月～9 月期））

美濃市内河川敷 8 地点で河川ごみ回収量を調査。

- 例年河川ごみが増える 8 月において回収量を比較すると、年々増加傾向にあり、コロナ禍であった令和 2 年においても回収量が増加。

【図 11 河川ごみ回収量（美濃市：6 月～9 月比較）】

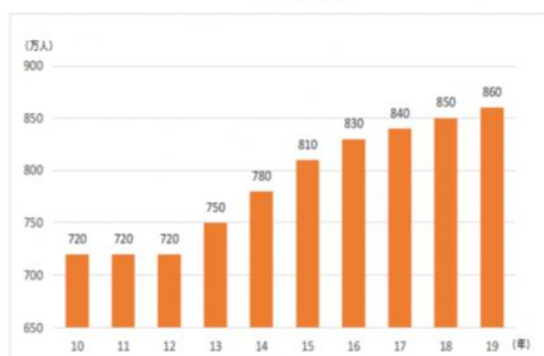


＜参考 令和3年度版観光白書（令和3年6月、観光庁）＞

- 新型コロナウイルス感染症が拡大する以前より、キャンプ等のアウトドア需要は高まっており、オートキャンプ参加人数は、過去6年間で約100万人増加。
- 新型コロナウイルス感染症による旅行者の変化として、3密の回避につながる、自然が多い地域への訪問意向が高まっているとの調査結果がある。

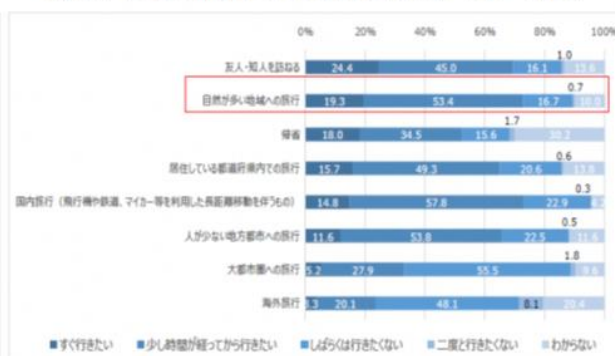
【図12 アウトドア等の自然体験へのニーズ】

図表Ⅱ-38 オートキャンプ参加人数の推移
(推定値)



資料：(一社)日本オートキャンプ協会「オートキャンプ白書2020」

図表Ⅱ-39 意識調査 渡航や外出自粛が緩和された場合、どんな旅行にいつ頃行きたいか(単一回答)



資料：JTB・JTB総合研究所「新型コロナウイルス感染拡大による、暮らしや心の変化及び旅行再開に向けての意識調査2020」(2020年5月)

出典：「令和2年度観光の状況」及び「令和3年度観光施策」(観光白書)